

第2章

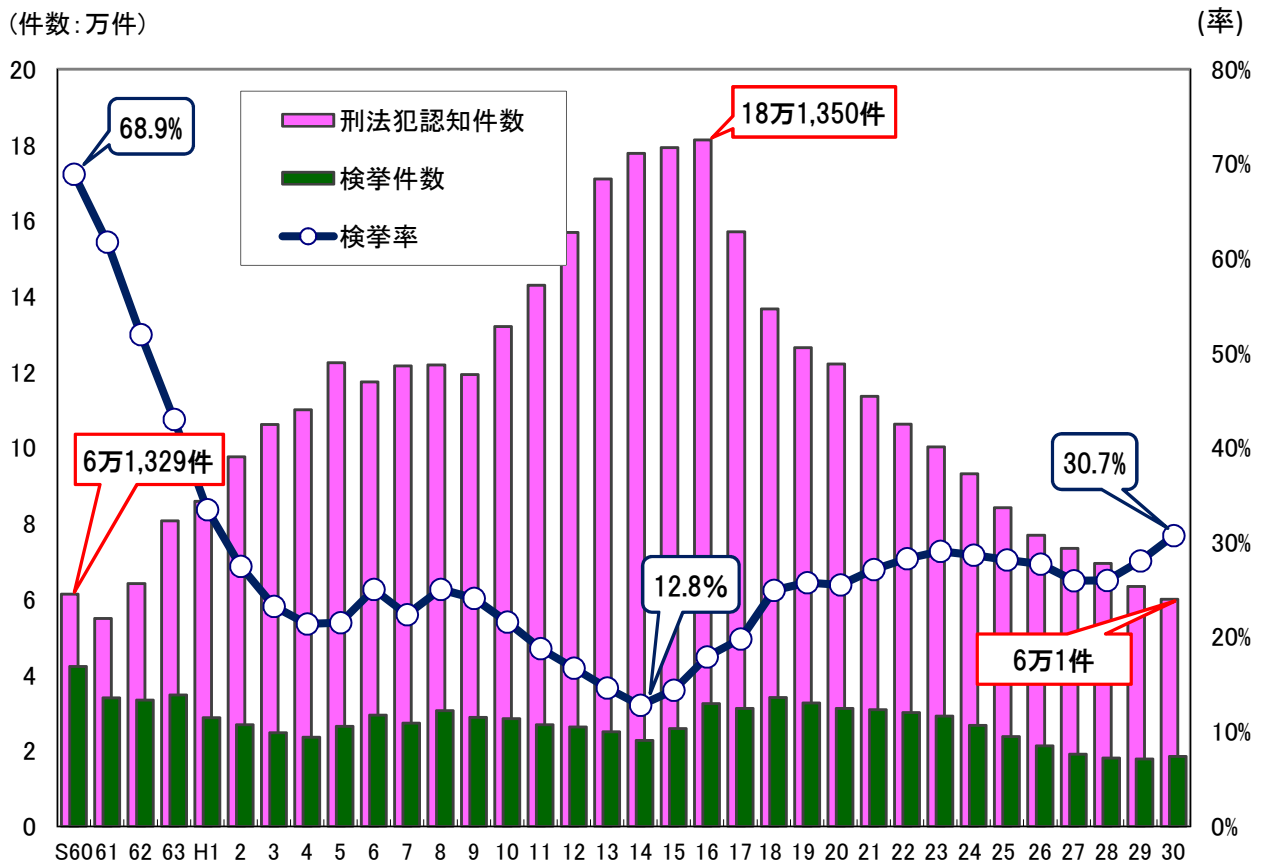
本県の犯罪情勢

1 全体的傾向

本県における刑法犯認知件数*は、昭和60年代以降急激に増加し、平成16年には戦後最多となる18万1,350件に達しました。しかし、県民、事業者、市町村及び県の連携・協力により防犯のまちづくりに関する様々な取組を推進した結果、その後は減少に転じ、平成30年には6万1件と、平成16年に比べて66.9%減少しました。

一方、検挙率は、平成14年の12.8%から、平成30年にはその2倍以上となる30.7%まで上昇しています。

本県の刑法犯の推移

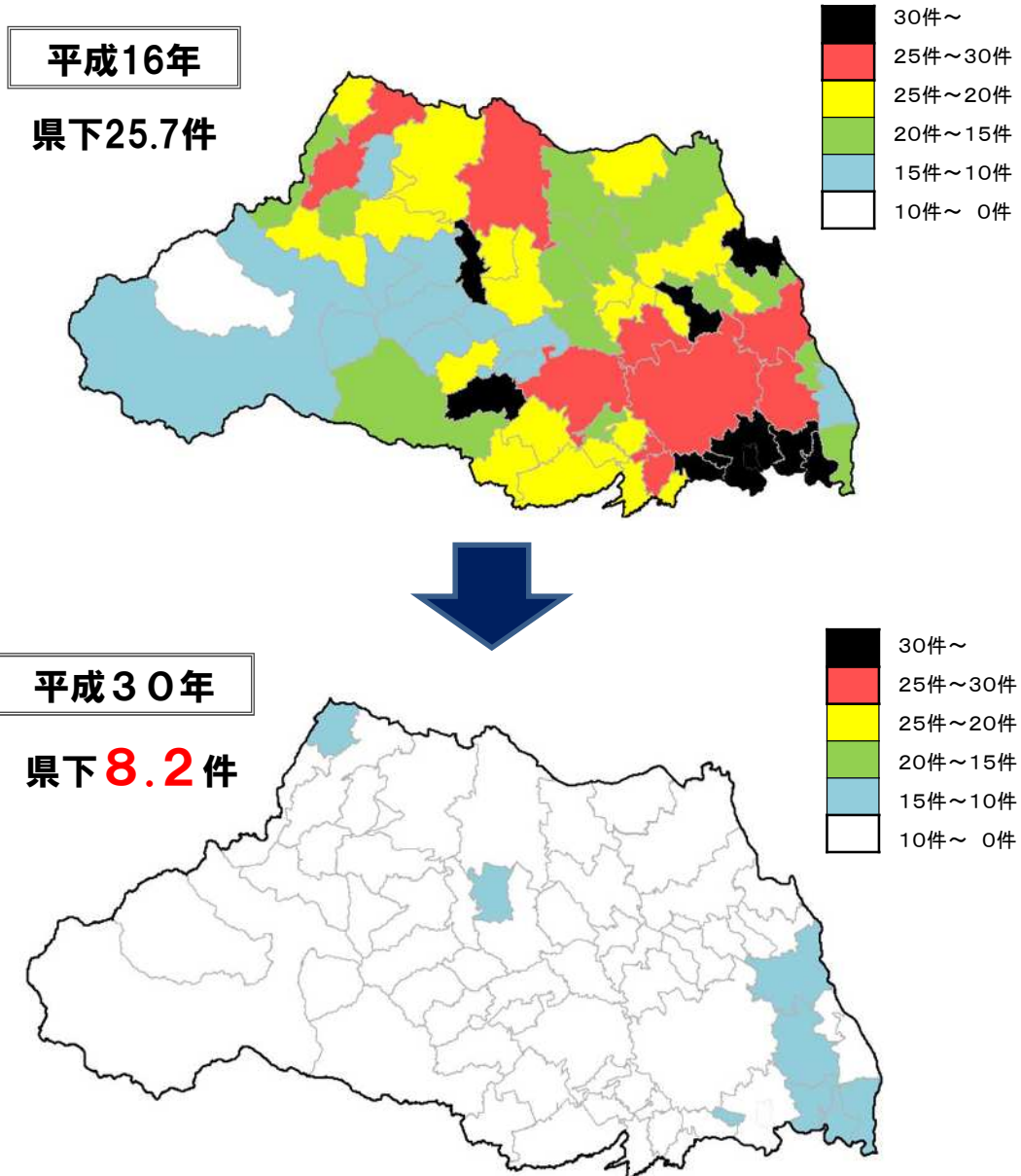


2 人口千人当たりの刑法犯認知件数*の状況

人口千人当たりの刑法犯認知件数をみると、平成30年は8.2件で、平成16年の25.7件に比べてマイナス17.5件と大きく減少しました。

また、市町村別の人口千人当たりの刑法犯認知件数でも、全ての市町村で減少しています。しかし、県南部や県南東部の人口密集地など一部の市町村では、比較的高い水準にあります。

市町村別人口千人当たりの刑法犯認知件数の状況

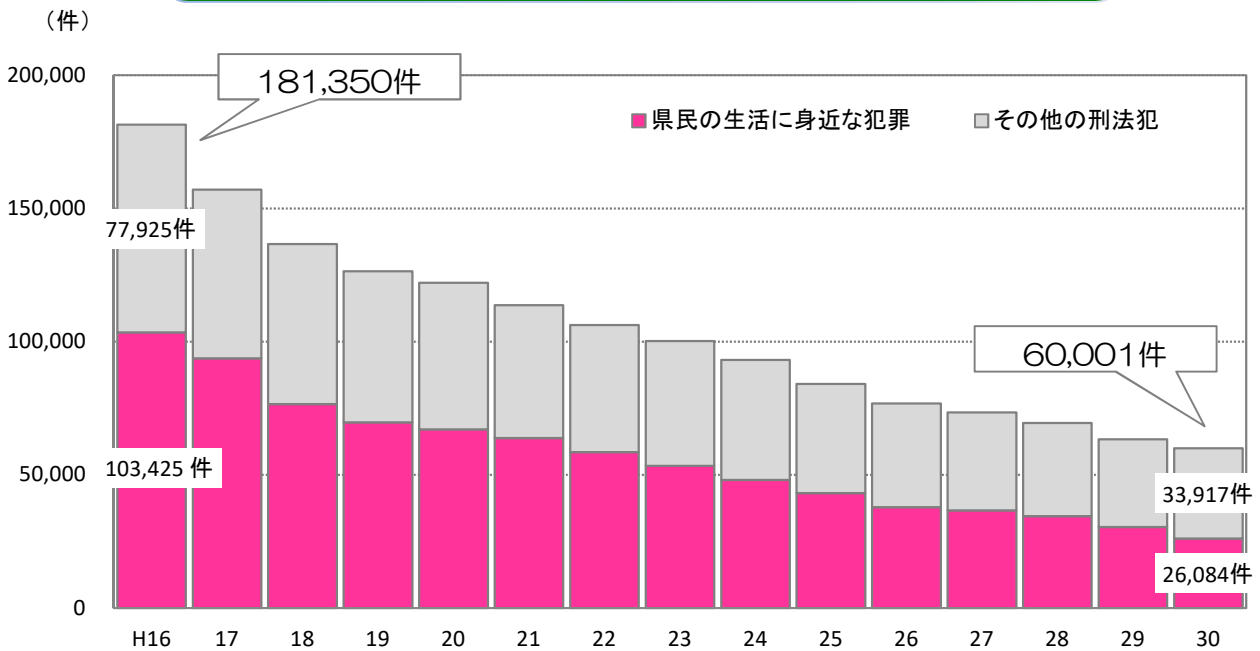


3 県民の生活に身近な犯罪*の状況

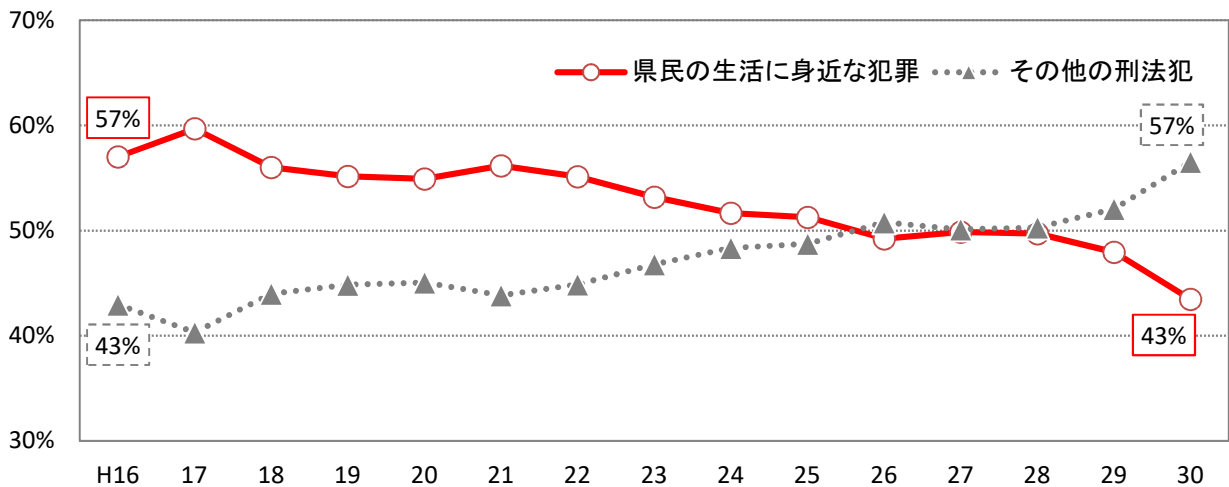
ひったくりや路上強盗、住宅対象侵入窃盗などの県民の生活に身近な犯罪は、平成16年の状況を見ると10万3,425件と刑法犯全体の57%を占めていましたが、平成30年には2万6,084件と全体の43%まで減少しました。

本県における刑法犯全体の減少は、県民の生活に身近な犯罪の減少が大きな要因となっています。

県民の生活に身近な犯罪の認知件数の推移



全刑法犯に占める県民の生活に身近な犯罪の割合の推移



(1) 各種犯罪の状況

県民の生活に身近な犯罪*（住宅対象侵入窃盗を除く）は、平成16年の8万8,635件から平成30年には2万3,489件と、件数で6万5,146件、率にして73.5%減少し、刑法犯全体の減少率66.9%を上回っています。

しかし、罪種別にみると、ほとんどが平成16年比で70%以上減少しているのに対し、自転車盗（52.7%減少）や強制わいせつ（40.7%減少）、強制性交等（63.3%減少）など一部の犯罪は刑法犯全体の減少率を下回っています。

県民の生活に身近な犯罪の罪種別認知件数の状況(平成16年・平成30年)

罪種	認知件数(件)			
	平成16年	平成30年	比較	
車上ねらい	23,553	3,253	△20,300	△86.2%
自転車盗	36,026	17,026	△19,000	△52.7%
自販機ねらい	8,756	591	△8,165	△93.3%
オートバイ盗	8,533	1,203	△7,330	△85.9%
自動車盗	6,178	747	△5,431	△87.9%
ひったくり	4,289	165	△4,124	△96.2%
路上強盗	444	34	△410	△92.3%
強制わいせつ	690	409	△281	△40.7%
強制性交等	166	61	△105	△63.3%
合計	88,635	23,489	△65,146	△73.5%
刑法犯全体	181,350	60,001	△121,349	△66.9%

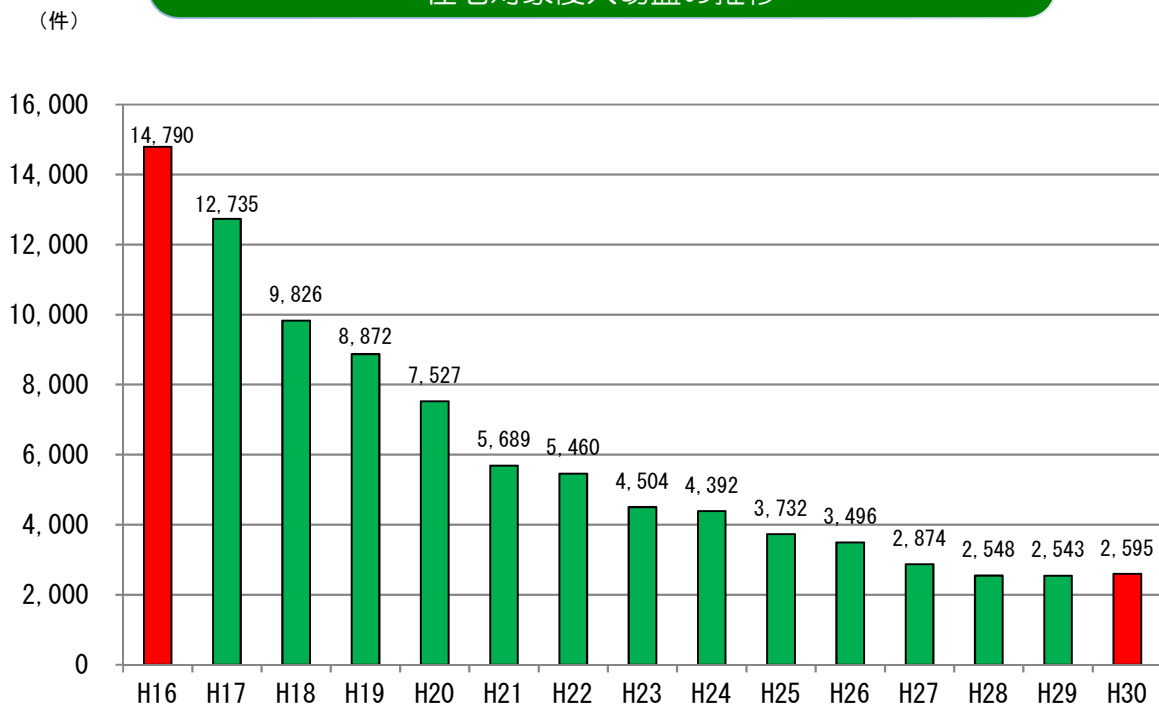
第2章 本県の犯罪情勢

(2) 住宅対象侵入窃盗の状況

住宅対象侵入窃盗は、平成30年には2,595件で、平成16年の1万4,790件と比較すると、82.5%減少しています。

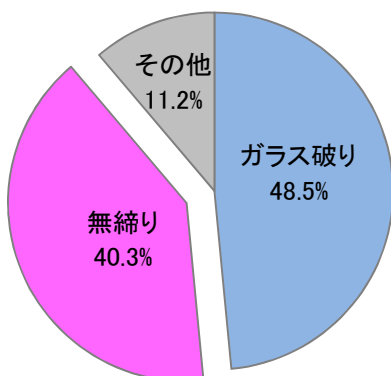
しかし、侵入手口別の状況をみると、侵入手段はガラス破りが44%を占めていますが、無締り箇所からの侵入が45.7%と最も高い割合となっていることから、防犯意識を高めることで防げるケースが多くあります。

住宅対象侵入窃盗の推移



住宅対象侵入窃盗の侵入手口別の状況

【平成25年】



【平成30年】

